

みんなが安心して授業に参加し、
学びを広め深めるための

単元名 ()

第 () 時 / 全 () 時

授業者 ()

授業基本モデル

単元前の使い方

1
教室の環境のⅠ～Ⅲを確認し「済」「未」のどちらかにチェック

2
「未」をクリアするためUD手立て集から加える

授業前の使い方

1
i, ii, ①～⑥を確認し、「済」「未」のどちらかにチェック

2
「未」をクリアするための手立てをUD手立て集から加える

3
さらに学習内容や児童の様子を思い浮かべて他に
つまずきそうな場面がないかを
チェックし、必要な
手立てをUD手立て集から加える

→授業へ

【授業後の使い方】
どんな児童にどんな場面で有効だったかを記録し次時に生かす

教室の環境

- I 見やすい、聞こえやすい環境になっている →
- II 動きやすい、整理しやすい環境になっている →
- III 学習ルールが確立されている →
- 他につまずきそうなところは… →

済 未

授業全体

- i 発問・指示・説明を分け、一時に一事を伝えている →
- ii 褒める・励ます場面をイメージしている →
- 他につまずきそうなところは… →

A 意欲を高める学習課題の提示

- ① 児童にとって学習課題が明確である →
- ② 問題を焦点化する発問や本時のポイントとなるキーワードにつながる発問が明確である →
- 他につまずきそうなところは… →

B 考えを広め深める学び合いの工夫

- ③ モデルやヒントを考えている →
- ④ 学習形態の目的を明確にしている →
- ⑤ 板書計画と言語化の内容が定まっている →
- 他につまずきそうなところは… →

C わらいに即した適用問題の設定

- ⑥ 問題の量を選択できる →
- 他につまずきそうなところは… →

○次時に向けて

UD手立て集から加える

UD手立て集

I 見やすい・聞こえやすい環境になっている		
対応するつまづき（T：教師 無印：児童）	手立て	
見せたい物に集中できない	1	掲示物を前面以外にする
	2	教師用の棚に目隠しをする
	3	テレビにカーテンを掛ける
	4	黒板をきれいにする
	5	黒板を広く使えるようにする
見えにくい ノートを書くことに時間がかかる	6	決まった色のチョークを使って板書をする
	7	板書の字を大きく書く
見にくい ノートを書くことに時間がかかる	8	板書の量を決めている
	9	隣の字と間隔を空けて書く
話に集中できない	10	必要な物以外は机の中に片付ける
音が気になる	11	机や椅子の脚にテニスボールを付ける
聞かせたい物に集中できない	12	教師が情報を発信する前に児童の聞く体勢を確認する
	13	音や声がなくなってから話す
	14	話を聞く場を掲示物で知らせる
	15	聞こえやすい距離にする
II 動きやすい、整理しやすい環境になっている		
対応するつまづき（T：教師 無印：児童）	手立て	
混み合う	1	時差を付けて指示をする
	2	児童の動線を決めておく
	3	場面に応じて一方通行のところをつくる
ノートを書くことに時間がかかる	4	説明を聞く時間と書く時間を別にする
意見が出ない	5	失敗に寛容的な雰囲気をつくる
時間の見とおしがもてないと不安になる	6	タイマーで活動時間を示す
忘れ物をする	7	ノートを忘れた時にノートのコピーなどを用意する
	8	筆記用具を忘れた時に貸し出し用の物を用意する
整理ができない	9	物の場所を固定化する
	10	ノートを出す場所を決める
	11	かごを使う
	12	グループごとに色で示す
	13	大きさや形を揃える
	14	物の定位置を決める

Ⅲ 学習ルールが確立されている			
教室の環境	対応するつまづき（T：教師 無印：児童）	手立て	
	発表のルールが確立されていない	1	発表のルールを決める
		2	黙って拳手させる
		3	指名されたら返事をする→立つ→「～です」など語尾まで話す
		4	全員に聞こえる声の大きさと話す
		5	話す時は人が多い方を向いて話す
		6	話し手を見て聞く
	発表のルールが確立されていない	7	話の最後まで聞く
		8	質問は話を最後まで聞いてからする
		9	同意する時は頷きながら聞く
		10	異議があるときは首をかしげながら聞く
		11	聞き取れないときにはもう一度言ってもらうようお願いする
	話の聞き方のルールが確立されていない	12	座席の配置を工夫する
		13	良い行動や増やしたい行動があったときに褒める
		14	具体的な言葉でルールを示す（曖昧な表現をつかわない）
		15	掲示物などで視覚的にルールを示す
		16	授業に関わる当番や手順表やマニュアルを掲示する
		17	間違えたところは消しゴムで消さず、二重線等で消す
	学習ルールが確立されていない	18	百玉そろばんで「10は9と1」などと唱えさせる
		19	百玉そろばんで「掛け算」を唱えさせる
		20	フラッシュカードで「10は9と1」などと唱えさせる
21		既習事項の問題をさせ、できた順に丸を付ける。	
授業に遅れてくる児童が多い			

発問・指示・説明を分け、一時に一事を伝えている			
授業全体	対応するつまづき（T：教師 無印：児童）	手立て	
	発問・指示等が伝わらない	1	一回に複数の活動を指示しない
		2	一つ指示したらできていることを確認する
		3	ノートを書いている間に指示をしない
		4	児童が理解できる発問をする
		5	「ノートに書きます」「お隣と相談します」など具体的な行動を指示する
		6	教師に注目しているのを確認してから発問・指示・説明をする
		7	注目を促すため、「注目カード」を提示する
		8	指示や伝達事項をカードなどで示す

褒める・励ます場面をイメージしている		
対応するつまづき（T：教師 無印：児童）	手立て	
褒めるところをイメージできない（T）	1	正答ではない回答でも、その努力の過程を認める
活動に取り組まない	2	活動の全体量を示す
	3	活動終了後に何をすればいいのかわかるように示す
褒めるところをイメージできない（T）	4	個別にノートを持ってこさせ、丸を付ける
	5	机間指導をしながら、丸を付ける。
	6	計算途中でも、合っている部分を見つけ、小さな丸を付ける
その他		
対応するつまづき（T：教師 無印：児童）	手立て	
活動に取り組まない	1	スケジュール表などで授業の流れの見通しを視覚的に示す
	2	単元の流れを視覚的に示す
	3	単元の流れを学習計画表で示す
座り続けていると集中できない	4	意図的に動く場面を設定する
分からないことを伝えることができない	5	ハンドサインを取り入れる
たくさんの情報を整理できない	6	下敷きなどで隠し、情報を限定して提示する
	7	指、手などで隠し、情報を限定して提示する

児童にとって学習課題が明確である		
対応するつまづき（T：教師 無印：児童）	手立て	
学習課題の理解が難しい	1	視覚的な手掛かりを活用する
	2	ICTを活用する
	3	具体的な行動で判断できる学習課題を設定する
	4	板書に示し、見直すことができるようにする
	5	記録写真を活用する
	6	教科書を指さして確認させる
	7	難しい問題の前に少し簡単な問題をさせ、理解を促す
	8	わざと間違えたり、情報を足りなくしたりする
問題を焦点化する発問や本時のポイントとなるキーワードにつながる発問が明確である		
対応するつまづき（T：教師 無印：児童）	手立て	
発問が不明確（T）	1	既習の内容と本時の内容の違いを考える
	2	本時のポイントを焦点化する
	3	複数の内容が組み合わせてある文を、一つずつの内容に分ける
	4	複数の内容が組み合わせてある文に問題がいくつあるかを数える
	5	一つの文章に複数の問題が含まれている場合は、問題の数を確認し、答えの数が同じであることを伝える
	6	わざと間違えたり、情報を足りなくしたりし、本時のポイントに着目させる

		その他	
A 学習意欲を高める 学習課題の提示	対応するつまづき（T：教師 無印：児童）	手立て	
	前時の学習内容が未定着	1	前時の学習内容を確認する
	課題や問題の内容理解が難しい	2	情報を絵や図で説明する
	数のイメージが持ちにくい	3	身近な物でイメージを持たせる
	情報の整理ができない	4	付箋を活用する
		5	挿絵を鉛筆や赤鉛筆で囲ませる

		モデルやヒントを考えている	
B 考えを広げ深める 学び合いの工夫	対応するつまづき（T：教師 無印：児童）	手立て	
	考え方の見通しを持つことが難しい	1	回答の選択肢を提示する
		2	問題の解き方が分かる資料を準備する
		3	問題の解き方が分かる教材を準備する
		4	教科書を見て良いことにする
		5	具体的な行動の仕方で指示する
	考え方の書き表し方が難しい	6	課題解決の道筋を示す手続き表を準備する
		7	言葉の式を書かせる
	考え方の見通しを持つことが難しい	8	わざと間違える
		9	教科書の挿絵やイラストに数を記入させる
	問題文の理解が難しい	10	問題文を読んで聞かせる
		11	問題文を図にする
		12	問題文のキーワードに気付かせる
13		計算の手順のヒントを与える	
		学習形態の目的を明確にしている	
対応するつまづき（T：教師 無印：児童）	手立て		
何をしていたらいいかわからない	1	グループでの役割分担を示す	
自分の考えを話せない	2	学んだこと、考えたことを隣の人に話す活動を取り入れる	
自分の考えを持ってない	3	友達の考えを参考にして良いことを伝える	
全体での発表に自信がない	4	全体で発表する前に自分の考えを話せるかを確認する	
	5	隣の人の考えを全体に発表する	
		板書計画と言語化の内容が定まっている	
対応するつまづき（T：教師 無印：児童）	手立て		
板書の仕方が決まっていない（T）	1	まとめ方をパターン化する	
	2	学習課題とまとめを色のついたチョークで囲む	
	3	黒板を二分割にするか三分割にするか決める	
	4	板書とノートの使い方を関連付ける	
	5	位取りでは縦を揃えて板書する	
	6	計算の手順が複雑な計算のときには、等号や位を縦に揃えて板書する	

B 考えを広め深める 学び合いの工夫	言語化の内容が定まっていない (T)	7	学習課題に対応した本時のまとめを考える	
		8	言語化した文章が児童にとって理解できるか考える	
	言語化した内容が定着していない	9	言語化して確認した内容は逆を聞いて確認する	
		10	言語化して確認した内容を言わせて確認する	
		11	言語化して確認した定義を言わせて確認する	
		12	言語化して確認した定義の逆を聞いて確認する	
	その他			
	対応するつまづき (T:教師 無印:児童)	手立て		
	学び合いができない (T)	1	時間を確保する	
	話せない	2	言葉以外の表出手段(筆談, 身振りなど)を認める	
	数で考えることが苦手	3	解決の方法を複数用意し, 選択できるようにする	
	活躍の場がない	4	個々の児童の活躍の場を設定する	
ノートの枠だと考えにくい	5	ワークシートを使用する		
自分の考えが思い浮かばない	6	教科書の図をノートに写させる		
数えることが苦手	7	数えたものに印を付ける		
計算が苦手	8	計算用のスペースを確保させる		
	9	位取り表を使う		

C おらいに即した 適用問題の設定	問題の量を選択できる			
	対応するつまづき (T:教師 無印:児童)	手立て		
	問題を準備できない (T)	1	問題の量を選択できる問題集を使用する	
		2	黒板に複数の問題を書き, 選択させる	
		3	問題をワークシートに用意する	
		4	一問でもいいことにする	
5		本時で取り組んだ問題を一人でできるか確認する		

研究 主題	安心して授業に参加し、考えを広め深める児童を育てる指導 ー ユニバーサルデザインを取り入れた算数科の授業づくりを通して ー	研究 分野	小学校
			算数科

第2学年算数科学習指導案

指導月日 平成30年10月22日
 所属校名 亶理町立長瀨小学校
 氏名 齋藤 貴裕

1 単元名 「新しい計算を考えよう」 (東京書籍 新編新しい算数2下)

2 単元の目標

○乗法の意味について理解し、それをを用いることができるようにする。

(1) 乗法のよさに気づき、ものの全体の個数を捉えるときに乗法を用いようとする。

【関心・意欲・態度】

(2) 累加の考えや乗数と積の関係などを基に乗法九九の構成の仕方を考え表現することができる。

【数学的な考え方】

(3) 乗法が用いられる場面を絵や図、言葉、式で表すことや、乗法九九を構成し、確実に唱えることができる。

【技能】

(4) 乗法が用いられる場合や乗法九九について知り、乗法の意味や乗法について成り立つ性質(乗数が1ずつ増えるときの積の増え方や交換法則)を理解する。

【知識・理解】

3 単元観

本単元は、小学校学習指導要領解説算数編第2学年「A数と計算」の「(3)乗法の意味について理解し、それをを用いることができるようにする」と「D数量関係」の「(2)乗法が用いられる場面を式に表したり、式に読み取ったりすることができるようにする」を受けて設定したものである。

第1学年では、「10が6こで60」という数の理解を基に、10のまとまりがいくつと数えてものの数を数えたりするなど、乗法の素地的な経験をしている。これらの経験を受けて、第2学年では、乗法が用いられる場面を通して、乗法の意味を理解できるように指導する。また、この意味に基づいて乗法九九を構成したり、その過程で乗法九九について成り立つ性質に着目したりするなどして、乗法九九を身に付けられるようにする。そして、獲得した乗法九九を日常生活や学習の中で活用できるようにすることが本単元のねらいである。

4 児童の実態

2年1組は20名の児童である。

6月に実施した算数の授業における意識調査から、「前日の算数の授業でできるようになったことはありますか」の質問に対してクラスの約47%の児童が「ない」と答えている。また、抽出した児童の観察調査では45分間の授業中、授業に参加していないと判断できる時間帯が約25%あった。

実態の差が大きく、集団に対する指示、発問で活動に向かうことができる児童と、個別に指示をすることで活動することができる児童がいる。前単元では、個別に指示することで学習に向かうことができる児童らを含めた6人と、集団での指示で概ね活動に向かうことのできる14人に分けた実態別の少人数指導を行っており、安心して授業に参加している様子が増えてきている。また、自分の考えを持って考えを発言しようとする児童や、自分の考えを持つことが難しいものの、友達のことを聞いて分かる児童も増えてきている。

以上のことから、本単元においても児童の参加やつまずきの様子を丁寧に見ながら、授業を進めていくことや、多様な実態に応じた手立てが必要であると考えます。

5 指導観

児童の実態より、簡単な発問や指示、確認をし、褒めることで学習への意欲が高まると考える。安心して学習に参加するとともに、その時間に何を学習するのか、その時間で何ができるようになったのかを実感できることが必要であると考えます。明確な学習課題の設定と適用問題による振り返りを行い、できる、分かる経験を積むことができるようにする。

掛け算においては、具体的な場面を通して、同じ数のまとまりがあることに気付くこと、そのまとまりがいくつ分あるかという考え方ができることを確認し、乗法を用いることができる条件を理解させていく。

その後、基にする量の何倍かに当たる量を求めるときにも乗法を用いることができることを理解させる。連続量を扱い、倍の概念を導入することを通して、「一つ分の数のいくつ分を求める」ことから「ある量の何倍に当たる量を求める」と、乗法の意味を拡張させていく。

九九の構成については、答えがいくつずつ増えていくかに気付かせるようにし、そのことを利用して他の九九を構成するように展開する。九九を構成する中で、乗数が1増えれば積は被乗数分だけ増えるという乗法の性質や乗法について成り立つ交換法則などの決まりについて発見できるようにしたい。

6 研究主題との関連

本研究は、授業基本モデルとUD手立て集を使った授業づくりによる算数科の学習指導を通して、安心して授業に参加し、考えを広め深める児童を育てることを目指している。

授業基本モデルによるチェックをして、未達成のものについては、UD手立て集より手立てを取り入れ達成されるように努める。チェックやUD手立て集と関わりのある手立てについては8 (3)で示す。

UD手立て集より次の手立てを取り入れて授業を行う。

【安心して授業に参加するために】

想定されるつまずき		取り入れる手立て	手立てを取り入れることで期待される児童像
現象	考えられる原因		
・相手の話の途中で話し始める。	・学習ルールが分からない。 ・話したい気持ちが強く、自制できない。	・掲示物でルールを伝える。	・掲示物や教師からの指し方でルールに気付く。
・授業に集中できない。	・見通しが持てない。	・授業の流れをスケジュール表で示す。	・安心して授業に取り組む。
・立ったり、動いたりする。	・座って授業を受けていることに飽きる。	・意図的に立ったり座ったりする場面を設定する。	・立つ、座るなどの動きで気持ちが切り替わる。
・不安な表情になる。	・分かっていないことを伝えられない。	・ハンドサインで理解度を示させる。	・理解度を伝え安心する。
・授業に出てくる言葉を理解できない。	・前時の学習内容が定着していない。	・前時までの学習を掲示する。	・掲示物を参考に学習に取り組む。

【考えを広め深めるために】

想定されるつまずき		取り入れる手立て	手立てを取り入れることで期待される児童像
現象	考えられる原因		
・自分の考えを書くことができない。	・何を書いていいか分からない。 ・どう書いていいか分からない。	・教科書を参考にしてよいことにする。 ・友達に聞いてもよいことにする。	・教科書や友達の考えを参考にして自分の考えをノートに書く。

	・間違えることが恥ずかしい。	・自分の考えの間違いに気付くことは価値のあることであると伝える。	・自分の考えをノートに書く。
・言葉で説明することができない。	・話して伝えることができない。	・言葉以外の手段（ノートなど）で伝えることも認める。	・ノートに書いてあることを見せたり見たりして相手の考えを理解する。
・話を聞いて理解することができない	・聞いて理解することが苦手である。		

7 単元の指導と評価の計画（25 時間扱い 本時 6 / 25）【省略】

8 本時の計画

(1) 目標

乗法の答えは被乗数を乗数の数だけ累加して求められることを理解する。

(2) 本時の指導に当たって

導入では、問題文の「6こずつ」と挿絵に着目させ、蓋が閉まってお菓子が見えない箱にもそれぞれ6このお菓子が入っていることを確認し、学習課題の理解につなげていく。

展開では自分の考えをノートに書いたり相手に伝えたりする場を設定する。

自力解決の場面では、その後に説明するため、言葉や図で答えの求め方を考えさせる。自分の考えを書くことが難しい児童については友達の考えをまねしたり、教科書を見たりすることも認める。自分の考えを書いた児童については、言葉と図の両方で説明できるように準備をさせたり、友達にヒントを出す役をさせたりし、全体での集団解決の前に、自分の考えを書いた状態にしていきたい。

全体での集団解決の場面では、新たな考えや自分の考えのよさに気付くことができるよう、ノートに書いてある内容から教師が意図的に指名し、説明させる。ハンドサインで友達の発表の内容が理解できているかを確認しながら全員が学習のねらいを達成できるようにしていきたい。

終末の場面においては、決まった時間内で取り組む問題数を選択させる。全員が意欲を持って授業に参加することをねらう。

(3) 指導過程

段階	学習活動 ○発問 ◇指示 □説明 ・予想される児童の反応	□：評価 ・：指導上の留意点 【数字】：授業基本モデルのチェックポイントに関する留意点 【UD】：UD手立て集に関する手立て
導入 5分	<p>1 本時の学習の流れを把握する。 スケジュール表を示す。 □今日の勉強はこの順で行います。</p> <p>2 問題を把握する。 ◇ノートに書きます。 「10/22 P. 9」と板書する。 ◇問題を一緒に読みましょう。 ・1はこにおかしが6こずつ入っています。 4はこでは、おかしは何こになりますか。 ○この箱には何個のお菓子が入っていますか？なぜですか？ ・6こ 6こずつと書いてあるから。</p> <p>◇掛け算の式をノートに書きます。 発表させる。 ・6×4 6こずつ 4はこ分だから</p>	<p>・教室に、学習の約束、前時までの学習内容を掲示する。【UD】</p> <p>・スケジュールを示す。【UD】</p> <p>・問題文と挿絵をで示し、「6こずつ」の意味を確認する。【A-②】 ・挿絵に「6」と記入し6が4つあることを視覚的に示す。</p> <p>・理由も発表させる。</p>

展 開 25 分	3 学習課題を把握する。 ◇☆2に指を置きます。読みます。 ◇ノートに書きます。 「 6×4 の答えの求め方を考えよう」と板書する。	・文節ごとに書く。 ・「答えの求め方」の理解が難しい児童にはまず、答えを求めることを示す。 【A-①】
	4 課題解決の方法に見通しを持つ。 ◇自分でできそうだという人は立ちます。 ・数名座る ○どうしますか？ ・足し算 ・6を4回足す	・スケジュール表を②にする。【UD】 ・友達の考えを聞いてヒントにさせる。
	5 自力解決をする。 ◇自分の考えをノートに書きます。言葉や図で書きましよう。	・スケジュール表を③にする。【UD】 ・自分の考えが書けない児童については、教科書9ページを示し参考にさせたり、分かる児童に聞きに行かせたりする。 【B-③, ④】 ・早く書いた児童には、言葉と図の両方でかくように指示する。 ・両方書いた児童はヒントを出しに行くことにする。【B-④】
	6 全体で解決する。 ◇発表を聞きます。 ○質問はありますか。 ○自分の考えと似ているところはありませんか。 足し算に気付いたことを褒める。	・スケジュール表を④にする。【UD】 ・意図的指名をする。 ・図を使った発表では、必要に応じてタブレットPCを使用する。
終 末 15 分	7 ノートにまとめる。 ◇ノートにまとめます。 「 6×4 の答えは、 $6+6+6+6$ の計算で まとめることができます」と板書する。	・スケジュール表を⑤にする。【UD】 ・自分のノートにまとめる。【B-⑤】 ・分かったかどうかをハンドサインで確認する。【UD】
	8 適用問題に取り組む。 <input type="checkbox"/> 答えの求め方が分かったか確認するために練習をします。 ◇△4に指を置きます。読みます。「掛け算の式に」 ・掛け算の式に書いて、答えを求めましよう。 ◇ノートに書きます。 ①と一緒にノートに書き、掛け算の式、足し算の式、答えを書くことを確認する。②、③は各自行い答え合わせをする。 △5に取り組ませる。 プリントに取り組ませる。	・スケジュール表を⑥にする。【UD】 知 乗法の答えは被乗数を乗数の数だけ累加して求められることを理解している。 ・問題数を選択してよいことにする。 【C-⑥】
	9 学習感想を書き、発表する。	・スケジュール表を⑦にする。【UD】

(4) 本時の評価

評価の観点	評価規準	十分満足できる	努力を要する児童への手立て
知識	乗法の答えは被乗数を乗数の数だけ累加して求められることを理解している。	乗法の答えは被乗数を乗数の数だけ累加して求められることを「一つ分の数」「いくつ分」と関連させて理解している。	適用問題においても、教科書の挿絵に数字を書かせ、全体の個数を求めるよう働き掛ける。

(5) 準備物

教師：スケジュール表、学習の約束の短冊、前時までの学習の掲示物

児童：教科書、ノート、筆記用具、計算スキル

(6) 板書計画

10/22

(問題文と挿絵)

しき 6×4

6×4 の答えの求め方を
考えよう。

(見通し)

- ・6こずつ
- ・たし算

6×4 の答えは,
 $6+6+6+6$ の計算で
もとめることができる。

Aくん

ひとつずつ数える

24こ

Bさん

たし算でもとめる

$$6+6+6+6=24$$

24こ

△4

①せっけん

$$3 \times 4 = 12$$

$$3 + 3 + 3 + 3 = 12$$

答え 12こ

②…

③…

△5

$$7 \times 6 = 42$$

$$7 + 7 + 7 + 7 + 7 + 7 = 42$$

みんなが安心して授業に参加し、
学びを広め深めるための
授業基本モデル

単元名（新しい計算を考えよう）
第（6）時／全（25）時

授業者（齋藤 貴裕）

単元前の使い方

1
教室の環境のⅠ～Ⅲを確認し「済」「未」のどちらかにチェック

2
「未」をクリアするためUD手立て集から加える

授業前の使い方

1
i, ii, ①～⑥を確認し、「済」「未」のどちらかにチェック(✓)

2
「未」をクリアするための手立てをUD手立て集から加える

3
さらに学習内容や児童の様子を思い浮かべて他に
つまずきそうな場面がないかを
チェックし、必要な
手立てをUD手
立て集から加える

→授業へ

【授業後の使い方】

どんな児童にどんな場面で有効だったかを記録し次時に生かす

教室の環境	済	未	
Ⅰ 見やすい、聞こえやすい環境になっている	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	→
Ⅱ 動きやすい、整理しやすい環境になっている	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	→
Ⅲ 学習ルールが確立されている	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	→
他につまずきそうなところは…	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	→
ルールを掲示物で伝える。			
スケジュール表 ハンドサイン 立ったり座ったりする場面			
UD手立て集から加える			
前時までの学習内容を掲示する			
教科書を見て良い 友達に聞いて良い 間違っ価値を伝える 言葉以外の手段を認める			
授業全体	済	未	
i 発問・指示・説明を分け、一時に一事を伝えている	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	→
ii 褒める・励ます場面をイメージしている	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	→
他につまずきそうなところは…	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	→
A 意欲を高める学習課題の提示	済	未	
① 児童にとって学習課題が明確である	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	→
② 問題を焦点化する発問や本時のポイントとなるキーワードにつながる発問が明確である	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	→
他につまずきそうなところは…	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	→
B 考えを広め深める学び合いの工夫	済	未	
③ モデルやヒントを考えている	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	→
④ 学習形態の目的を明確にしている	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	→
⑤ 板書計画と言語化の内容が定まっている	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	→
他につまずきそうなところは…	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	→
C わらいに即した適用問題の設定	済	未	
⑥ 問題の量を選択できる	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	→
他につまずきそうなところは…	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	→
○次時に向けて			
ルールを掲示物で伝える→有効・継続			教科書を見て良い→不明・継続
スケジュール表→有効「次、何するの」減少・継続			友達に聞いて良い
ハンドサイン→おそらく有効・継続			→E児、友達を参考にしようとする場面あり・継続
立ったり座ったりする場面→不明・継続			間違っ価値を伝える→場面無し・継続
前時までの学習内容を掲示する→有効・継続			言葉以外の手段を認める→場面無し・継続